

二〇二二年度 日本語・日本文学科 卒業研究（論文）題目

53

日本戦後絵本論	森 亜吏沙	源義経の最期とその伝承	加藤 彩子
人外論	青沼志津奈	縁起・本地物からみる結びの神	兼平 愛美
日本神話におけるヤマトタケル像	工藤 明花	変体少女文字の衰退について	川井 由佳
村上春樹論「ダンス・ダンス・ダンス」	佐藤 美穂	若者世代のぼかし表現について	木山 春香
後鳥羽院論	青山 恵梨	「龍」について	工藤 沙紀
『醒睡笑』における待遇表現についての考察	青山 澤	泉鏡花「眉かくしの霊」論	工藤 由佳
川端康成「みづうみ」論	赤坂かおり	遊女論	小西 彩音
後漢の政治と宦官の関わり	石田 愛	式亭三馬『浮世風呂』における人稱について	坂本 瑤子
谷崎潤一郎「瘋癲老人日記」論	伊勢可奈子	宮沢賢治論	佐久間裕子
桜庭一樹論	井芹加奈子	『源氏物語』における女性の呼称表現について	鹿田 彩美
川端康成『古都』論	今井 美穂	吉本ばなな作品における現代社会論	柴田 遥日
向田邦子論	植木奈緒美	『源氏物語』花散里について	清水 貴子
『カタカムナ』論	宇都宮美花	『源氏物語』中の品の女君の考察	清水 千尋
ロボット論	遠藤ひろ夢	日本人の幽霊観について	清水 麻希
村上春樹論	大内 美弥	尾崎翠『第七官界彷徨』論	下川 未梨
宇野浩二論	大阪 茉穂	北海道在住若年層に於ける言語の場面意識	城地 史乃
和歌における「恨む恋」をめぐるつて	岡本 麻由	小説における女学生言葉の比較	
綿矢りさ『蹴りたい背中』論	押切美咲希	——大正から昭和初期にかけて——	菅田 史織
日月神示論	香川菜穂美	母と娘の物語	菅原 成美

『源氏物語』における美的表現について

江島其磧論

蛇の表象

―上田秋成『雨月物語』「蛇性の姪」を中心に

橘千蔭論

近世における『源氏物語』の享受について

『万葉集』における色彩表現の研究

吉野山の異界について

北海道内陸部方言における助動詞サル・ラサルの

許容度について

『源氏物語』紫の上論

〈宇宙樹〉論―神社の柱について―

川端康成『山の音』論

「となりのトトロ」論

倒錯的思考―被加虐性―

『土左日記』の表記法について

震災時におけるラジオ放送の活用の実態と問題点

米澤穂信論

源氏物語の直喩表現について

『天草版伊曾保物語』における格助詞「から」の用法について

近世期の女性語について

杉浦みなみ

鈴木 珠里

鈴木 美香

高橋 枝里

高橋青瑠子

高山 友希

田口 恵果

田澤 麻侑

立石 紫佳

田中 綾乃

谷野 紗希

玉井志津華

玉澤 志保

千葉あすか

茶畑満里奈

坪田ゆき絵

徳永 恵子

豊田 美希

高田あかね

「恋死」を巡る和歌について

和歌文学における橘

西行の和歌について

―桜歌にひそむ宗教的イメージ―

内田百閒論

ウォルト・デイズニー論

道成寺説話にみる女人蛇体

マニユアル本における話し方の教訓について

掛詞における定家仮名遣の研究

携帯メールにおける性差・親近感の表出について

狐にまつわる怪異について

あいづち表現における男女差と役割

角の表現について

草野心平論

菊池寛「真珠夫人」論

和歌における「有明の月」の表現性

無常和歌にみる日本性

四季の和歌からみる季節の推移

夏の歌材からみる「夏らしさ」の様相

―新古今和歌集・夏部を中心に―

『万葉集』と『古今和歌集』における恋情表現について

中村ちさと

成田 綾香

西林 侑香

能藤 瞳

濱口瑛璃子

張替由利子

日置 智恵

樋口 望

日向 麗

平澤 麻衣

比留間菜那

福士 美喜

藤田美沙恵

藤原 奏絵

星 可那子

細川 玲李

細野 友香

本間 千夏

前川 菜美

『浮世風呂』の言語描写について

— 女性の会話を中心に —

ゲーム／小説論

『源氏物語』薫の人間関係と存在意義

女流歌人の登場について

『蜻蛉日記』論

中国の説話における狐

伊坂幸太郎作品論

樋口一葉論

体育会系敬語の使用実態と意識

支那趣味について

近代落語速記本における女性語

『ブラック・ジャック』論

『源氏物語』の端役について

現代日本人の外来語におけるカタカナ表記の使用実態

川上弘美論

和歌における「霞」と色彩表現

原拠本との比較による『天草版平家物語』の表現研究

助詞「さ」の接続関係とその男女差について

増田 早那

町村帆波美

松山 雪菜

三木 沙織

三谷 莉子

明珍 優唯

麦谷 実玖

榎山 裕子

百崎 綾

森 鶴晶

八重崎亜衣

矢部 愛実

山下 萌未

柚原 果林

横尾 朋香

吉田 唯

吉原 彩

萬屋 絢子